

金刀比羅安全祈願祭

海難事故と船員災害の撲滅に向け組合員の航行安全祈願

晴天に恵まれた 5 月 27 日、九州関門地方支部会館の屋上に祀られている「金刀比羅宮」において、金刀比羅安全祈願祭を開催し、全日本海員組合の政治参与をはじめ、海事関係者や行政機関、関係各社のほか全国海友婦人会・海員組合 OB 会など、総勢 56 人が参列し、神事が厳かに執り行われた。

安全祈願祭開催にあたり、主催者を代表して松本順一九州関門地方支部長は「海運、水産業は、かつてから日本の発展に寄与し、国民にとって欠かせないライフラインとして生活を支えている。災害時においても船舶、船員は大きな役割を果たしているが、その認知度は低く後継者の確保、育成は急務となっている。国民の暮らしを支える基幹産業として、安全意識の向上、海難事故と船員災害の撲滅に取り組み、海運、水産業の発展につなげたい」とあいさつを述べた。

引き続き、宮司によるご祈祷を賜り、参列の代表者が順に玉串奉奠を行った後、参列者全員で、洋上で働く組合員の航行安全と海運業界のさらなる発展を祈願し、金刀比羅安全祈願祭を終了した。

「海員だより」